

平成 27 年度

一人一人に目を向けたアドバンスド事業

事業の目的

埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用し、児童生徒の状況に応じた市町村提案型の学力向上策を展開し、取組の成果を県内に普及する。

委託地区

八潮市 大原中学校区（大曽根小学校）

大曽根小学校の取組

研究主題	学力の向上と豊かな心を育成する小中一貫教育の推進 ～分かる、表現できる、活用できる児童を育む授業の工夫・改善～
めざす児童	自ら進んで考え、相手に分かるように表現できる子

研究仮説

- ①個に応じた指導を工夫し、一人一人の思考の過程に適切に対応することで、課題に対して自力解決ができ、自分の考えを深めることができるであろう。
- ②算数的活動を工夫し、「考えることの楽しさ」「分かることの喜び」「伝えることの大切さ」を味わわせることで、相手に分かるように表現することができるであろう。

<主な手だて>

- ①基礎的・基本的な内容を身に付けさせる指導を工夫する。
- ②「考える過程」「伝え合う過程」を重視し、思考力・表現力を身に付けさせる指導を工夫する。
- ③家庭や地域と連携を深め、児童の実態を的確に把握する。

研究の内容

1. 毎日のステップアップタイム

【活動のねらい】

- *基礎・基本的な内容の定着を図る。
- *図（テープ図、数直線図等）を使って問題解決できるようにする。

【活動の概要】

- *毎日、第5校時開始前に10分間の帯で取り組ませている。
- *教師作成のワークシートにチャレンジさせ、答え合わせとともに教員からのポイント指導を行う。
- *担任外の教員も各学年の担当に入り、個別支援に当たる。



2. 算数カルテ作成と活用

①達成シート・・・学期毎に身に付けるべき基本となる問題を作成した。問題は、3連や学カテスト・教科書から作成した。達成シートは、ファイルし、次学年に引き継ぎをしていく。

② 検証テスト・ミニプリント

検証テストを実施し、間違えた問題をミニプリントで繰り返し復習をさせる。

*「児童がどこでつまずいているのか」を教師と児童自身が把握することで、つまずきを解消し、算数の学習に対する意欲の向上を図る。

*1年間に4回の検証テストを実施し、間違えた問題については、その番号のプリントを行い既習事項の確実な定着を目指す。

*このカルテは、同じ中学校学区の大原小学校においても活用され、2つの小学校から大原中学校に算数カルテが送られ、数学の授業で活用される。

3. 個に応じたきめ細やかな指導体制の整備

*取り出しによる個別指導の充実

○学期末の放課後学習 ○長期休業日中、全教員で指導にあたるサマー・ウィンタースクール

○学習内容の定着が不十分な児童対象に昼休み行われる校長室での補充学習

*ジョイスタ（土曜勉強会）との連携



「考える」、「伝え合う」場面を重視し、思考力・表現力を伸ばす

4. 八潮スタンダードの活用

*学習過程の統一

☞「つかむ・見通す・考える・話し合う・まとめる」
「自力解決」で「図・式・言葉」を使って問題を解き、「練り上げ」で「表現力」を付ける。

*「八潮スタンダード」(※注)に基づく学習指導案を作成している。

*研究授業前には、教職員が児童役となり、教員全員で模擬授業を行い、内容を検討後、さらに他のクラスで事前授業を行い、確認する。

5. 家庭との連携・家庭学習の充実

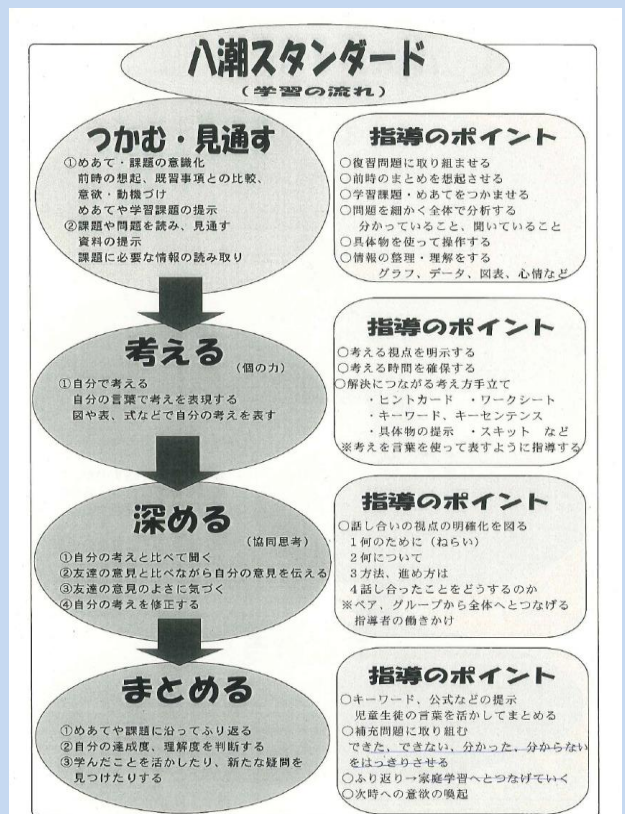
*各学級の児童による「算数日誌」の記入

☞教師の授業の振り返りに役立っている。

☞「算数日誌」を書いた児童が家に持ち帰り、それを保護者に見せる取組を行っており、このことが家庭への授業内容等の周知につながっている。

*大原中学校の定期テスト期間に合わせて、家庭学習強化週間を設定し、強化週間後に確認テストを実施する。

対象児童については、平成28年度埼玉県学力・学習状況調査における今年度からの経年変化を観て、一人一人の児童の伸びを捉え、成果と課題を明らかにしていく。



*基本的な授業展開を確立するため、八潮市の全校で活用されている八潮スタンダード